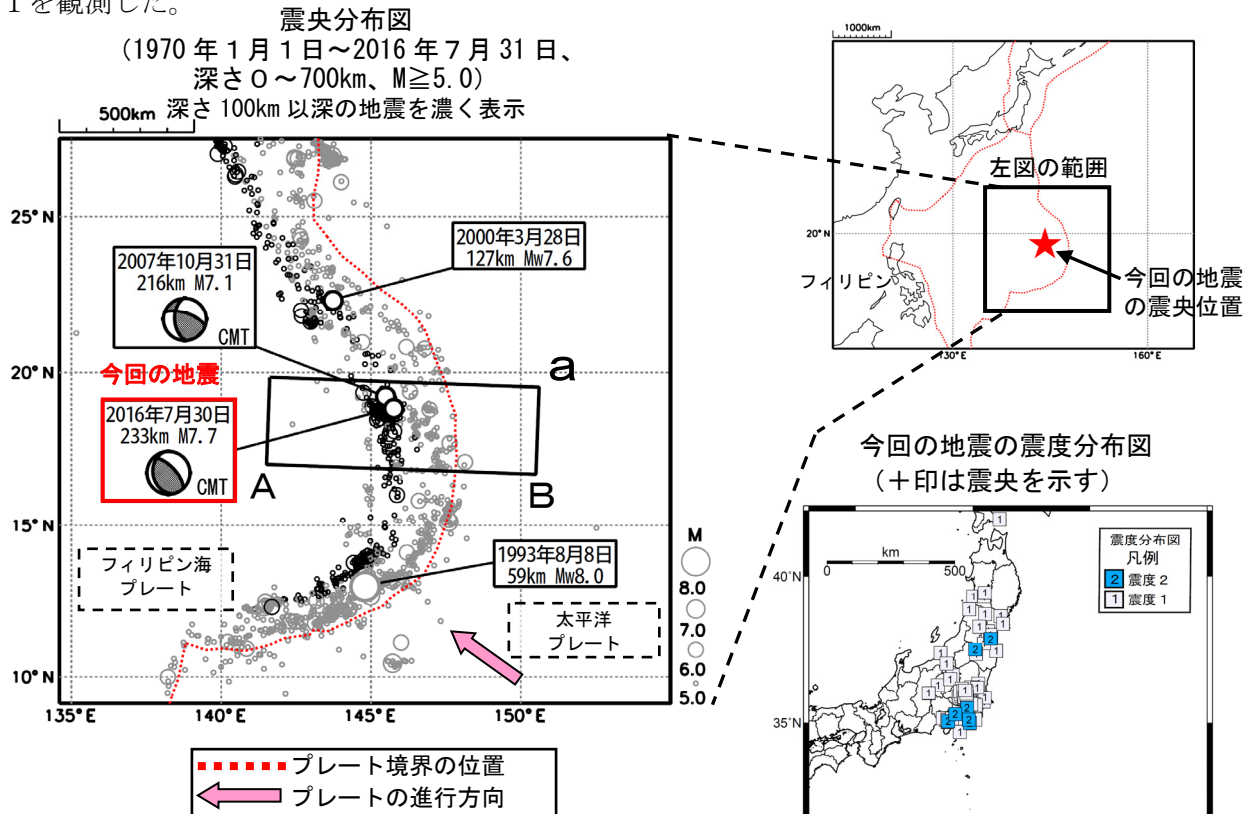


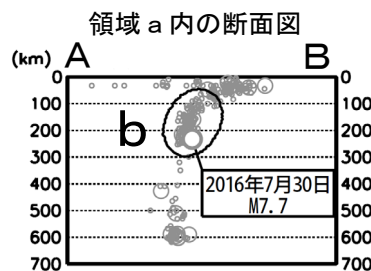
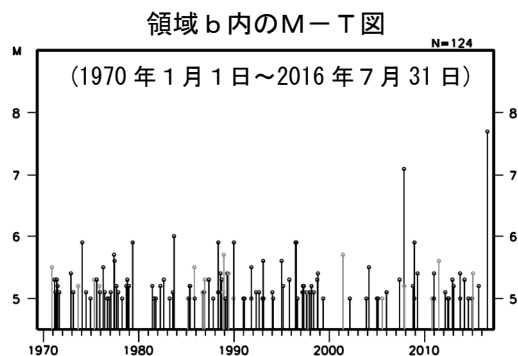
7月30日 マリアナ諸島の地震

2016年7月30日06時18分（日本時間、以下同じ）にマリアナ諸島の深さ233kmでM7.7の地震が発生し、日本国内で最大震度2を観測した。この地震の発震機構（気象庁によるCMT解）は、太平洋プレートの沈み込む方向に張力軸を持つ型で、太平洋プレート内部で発生した地震である。マリアナ諸島付近では、太平洋プレートがフィリピン海プレートの下に高角で沈み込んでいる。

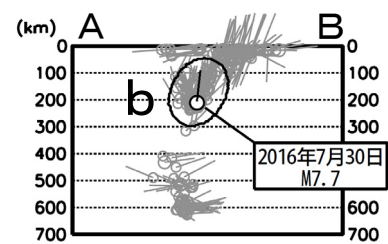
1970年以降の活動をみると、今回の地震の震源周辺（領域b）では、M5を超える地震が定常的に発生していて、M7を超える地震は今回の地震を含め、2回発生している。この周辺で発生する地震で、日本国内でも震度1以上を観測することがあり、2007年10月31日に発生したM7.1の地震では、最大震度1を観測した。



プレートの進行方向は、フィリピン海プレートを固定した場合の相対的な方向である。



領域a内の張力軸分布図
(Global CMT解による)



※震源から伸びる直線は、張力軸の方向を示す

※本資料中、今回の地震と2007年10月31日の地震の発震機構と震源要素及びMは気象庁による。その他の地震の震源要素とMwは米国地質調査所（USGS）による。プレート境界の位置と進行方向はBird（2003）*より引用。

*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.

気象庁作成